DJ-PHM10 のセットモードについて

本機を特定の環境やニーズに合うようカスタマイズできるのがセットモードです。意味を理解して設定しないといつもとまったく違う動きをしたり、一部の機能が使えなくなったり、音が悪くなったり、電池の減りが早くなったりと、「故障と勘違い」されることがあるため、あえて製品同梱の説明書には記載していません。まず説明をお読みいただき、各機能をよくご理解いただいたうえで、必要があるときだけ操作してください。

【重要なご注意】
もし、ユーザーグループの中に無線機システムを管理する方が居られる場合、セットモードやリセット操作は絶対にしないでください。勝手にリセットや設定変更をすると通信できなくなることがあります。特に後述するリセットをすると、弊社のサービスセンターに元の状態がどうであったかお尋ねになっても、お答えすることができません。通信ができなくなったら、正しく動く個体を親機にしてエアクローンしてください。クローン操作の説明書は専用の物を別にご用意しています。

[セットモード操作]

① 電源を切ります。電源キーと PTT（送信）キーの両方を 2 秒間押します。
起動後、ランプが水色に点灯して、「設定を選択してください」と、「現在のセットモード項目およびその設定値」を音声でガイドします。電源キーを 1 回押すごとに次の設定項目に移れます。

② アップキー、ダウンキーを押して設定内容や値を変更します。
項目の設定内容が変更されると音声でガイドします。

③ PTT（送信）キーを押すか、10 秒間無操作で放置すると変更を確定して、通常モードになります。
いずれの場合も「ピ！」と警告音が鳴り、ランプが水色からブルーに変わります。
次回セットモード操作を行うと、前回最後に使った項目から始まります。

[重要：リセットについて]
自分でチャンネルやグループ番号等の基本設定をしたのでなければリセットせず、設定をされた販売店か無線機管理者にご相談ください。リセットをされると、元々どのような設定をされていたのか分からなくなります。
「思わぬ動作をするようになったが、どの設定を変更したためなのか、原因が分からない。」というときは、リセットをしてから改めてチャンネルやグループ設定も含めた再設定が必要になります。自分で初期設定をしたのでなければ、設定をされた方に再設定を依頼することになります。
元々設定をされた方が退職や転勤などでいなくなって設定内容が分からない場合も（中継器も含めて）全員の無線機をオールリセットしてから、再設定し直す必要が有ります。いずれもエアクローン機能を使えば比較的簡単に修復できます。その方法は別途エアクローン専用説明書をご覧ください。

・リセット操作
電源を切ります。PTT（送信）キー、アップキー、ダウンキーの 3 つを同時に押したままで電源を入れなおし、ランプが白色に点灯したらキーを放すと、「初期化しました」とガイダンスが流れます。

[セットモード項目]

1：PTT キー無効

設定値　送信有効 / 送信禁止（初期値 有効）

送信禁止にすると [PTT] キーを押しても送信できなくなります。連絡を聞くだけの「受令機」として使うときの設定です。
注）VOX 運用時とショックセンサーの警報は、送信禁止になりません。

2 : バッテリーセーブ

設定値 OFF / ON / ロングモード / ECO モード（初期値 ON）

待ち受け状態が 5 秒以上続くと内部電源を自動で断続的に切って電池の消費を抑える機能です。
「OFF」、「ON」、「ロングモード」、「ECO」モードから選べます。ロングモードはオフ時間を標準より長く、ECO モード はランプ点灯を点滅にすることで、電池の持ちを長くします。
注）ロングモードと ECO モード では、受信音声が長めの頭切れを起こすことがあります。（例 :「あいうえお」、が、「うえお」、に聴こえます。）
OFF にすると頭切れはほぼ無くなりますが、電池の消費がかなり早くなります。頭切れがあると安全にかかわるような現場以外、通常は「ON」にしておくことをお勧めします。「ロングモード」や「ECO モード」のときは、ＰＴＴボタンを押して２呼吸ほど置いてから話すと頭切れが起きません。

3 : オートパワーオフ (APO)

設定値 OFF / 30 分 / 1 時間 / 1 時間 30 分 / 2 時間（初期値 OFF）

電源の切り忘れを防ぐ機能です。設定した時間、キー操作されることなく経過するとビープ音でお知らせして、自動的に電源が切れます。音声やセンサーによる警告などを受信してもタイマーはリセットされません。

4 : ランプ設定

設定値 OFF / Save / Lo / Hi（初期値 Hi）

送受待ち受け表示のランプ（ＬＥＤ）の明るさと、点灯する条件を変更できます。
Hi → 明るい
Lo → 暗い
Save → 交互通話、中継子機、同時通話モード時の送受信待ち受け状態表示は消灯、それ以外の減電池やイヤホン断線などの警告表示は点灯
OFF → 消灯

設定値を OFF にした場合、警告も含めてランプは一切発光しなくなりますのでご注意ください。

5 : VOX 感度

設定値 Lo / Mid / Hi（初期値 Mid）

話し声に反応して自動的に送信、黙ると受信（待ち受け）になるハンズフリー機能の VOX を使うとき、どの位の声に反応させるか、感度を「Lo」、「Mid」、「Hi」 から選びます。但し、感度調整しきれない騒音環境下では、VOX は実用的な運用ができません。
Lo : 大きな声でしか送信しません。周りに騒音があるところに向いています。
Mid : 普通の声で送信します。
Hi : 小さめの声でも送信します。周りに騒音が少ないところに向いています。

6 : VOX 条件

設定値 通常設定 / 特殊設定 1 / 特殊設定 2

VOX を使うときの送信開始/送信停止（受信に戻る）条件を選びます。
通常設定 : 話している間、 または PTT を押している間送信、黙るか PTT を放すと停止。
特殊設定 1 : 話し始めて送信開始、黙ったままでも送信状態を保持。 PTT を押して停止。
特殊設定 2 : PTT を押すと送信開始、話し終わると自動停止。

7：VOX ディレイタイム

設定値 0.5 / 1 / 1.5 / 2 / 2.5 / 3 秒（初期値 1.5 秒）

VOX で送信したとき、息継ぎしても途切れないよう初期値では 1.5 秒間黙っていても送信状態を保持します。この時間を 0.5 秒～3.0 秒に変更できます。違う設定を試して、使いやすいタイミングをつかんでください。

8： 操作音量

設定値 1～5（初期値 3）

本機から鳴るビープ音（操作音）とガイダンス音声の音量を調整できます。

9： マイク音量（感度）

設定値 1～7（初期値 4）

通話時の癖やマイクから口元までの距離により無線機に入る声量は異なります。声が小さい場合は数値を大きく、音が歪む場合は数値を小さくして適切に聞こえるように調整できます。

10： マイク音量詳細設定

設定値 オート設定/0～31　（初期値オート）

前項では思うように調整しきれないときにお試しください。但し、自動調整（後述のＡＧＣ）が効かなくなるうえ設定値が大きく変えられるため、声が極端に小さくなったり、歪んだりしやすくなりますのでご注意ください。社外品のマイクを使ったときの調整など、特殊な例を想定した項目です。

11：イヤホン断線検知

設定値 OFF/ON（初期値 ON）

本体に取り付けられているイヤホンの断線を検知する機能です。初期状態では有効になっていて、イヤホンが断線していると電源を入れた直後にランプが赤色と緑色に交互点滅します。社外品のイヤホンマイクを使うと誤表示する可能性が有るので OFF に設定することもできます。
注）イヤホンのみを使うときは右側スイッチ 2 の設定スイッチ 8 番を ON にします。
　　イヤホンマイクを使うときは同じく右側スイッチ２の設定スイッチ８番と９番を両方ともＯＮにします。

12：トーンマージン設定

設定値 1～5（初期値 2）

※ グループトークでのトーンの判定精度を調整できますが、本機と同じ機種だけで通話されるときは設定を変えないでください。違う機種と混在させて使ったときに、同じグループ番号に設定しているのに通話ができない場合はまずグループ番号を２桁の大きな数字にしてみてください。
それでも上手く動かないときや、大きな番号に設定できない機種のときは、この設定値を初期値より大きくしてください。ただし、近い番号のグループ信号を誤判定して他人の通話が聞こえたり、受信の終わりに「ザッ」音（テールノイズ）が聞こえたりするようになることがあります。
逆の場合は数値を１にしますが、実用上、判定精度が上がりすぎて使いにくくなります。

13：AGC

設定値 OFF/低速/高速（初期値 低速）

※ 本機と同じ機種だけで通話されるときは設定を変えないでください。
マイクに大きな声が入った時に、声が歪むのを緩和するのが AGC（オートゲインコントロール）です。ゆっくり緩和させる「低速」設定が初期値です。「高速」やオフ（無効）に設定すると他機種と混在させて使う時に感じる音質の相性問題を解決できることがありますが、逆に音が悪くなることもありますのでご注意ください。

14 ： 個体番号

設定値 0～99 番（初期値 0 番）

ショックセンサー設定時、センサーが異常を検知すると、アラーム音と“＊番 異常が発生しました”の警報が音声ガイドで送信されます。その番号を設定します。無線機の背番号のようなものです。

15 ： ショックセンサー検知時間

設定値 5～60 秒（初期値 5 秒）

あらかじめプログラムされた傾き（倒れた）状態が、この項目で設定する時間以上続くと警報を送信します。業務用無線機でポピュラーな「マンダウン（事故などで倒れた状態が一定時間以上続くと発報）」機能です。この機能を使うときは、次の項目は初期状態のオフにしておきます。

16 ： ショックセンサー検知レベル

設定値 OFF / 1~9（初期値 OFF）

無線機本体に衝撃を検知した場合、警報を送信します。数値が小さいほど弱い衝撃で警報を送信します。

17 ： 温度センサー

設定値 30～60℃（初期値 35℃）

無線機本体内の温度が設定温度以上になると、“周囲温度が高くなっています、ご注意ください”と音声で警告します。送信はしません。

【-重要- センサーの誤差について】
温度センサーとショックセンサーは部品の検知精度のばらつきや、例えば日向と日蔭のような使用条件の違いから、動作に大きな個体差が出る事が有りますが故障ではありません。１５～１７のセンサー機能はあくまで目安としてお使いください。業務用センサーとして使える精度は保証していません。センサーの誤動作で生じた不利益の補償は致しかねますので予めご了承ください。

18 ： 秘話設定

設定値 ON / OFF（初期値 OFF）

秘話機能を使う（ＯＮ）と「モガモガ」した声になって通話内容を他人に聴かれにくくなります。但し他の無線機でも同様の設定をすれば簡単に解読できるので、セキュリティは非常に低いものです。

19 ： 秘話信号値

設定値 2.7～3.4K（初期値 3.4K）

みんなが同じ設定値だと、秘話機能をオンにするだけで解読されてしまいます。このため秘話に使う信号値を変えることで解読されにくくします。通話したいグループ全員を同じ値に揃えてください。

20 ： 減電池アラーム

設定値 OFF / ON（初期値 ON）

ＯＮ状態では、充電が必要になると“充電してください”と音声ガイドします。不要な時は OFF にします。

21 ： 減電池自動 OFF

設定値 OFF / ON（初期値 ON）

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、内蔵リチウム電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため、電池が一定レベルまで減ると自動的に電源を切るのが初期値のＯＮ設定です。オフにすると電池を最後まで使い切れますが、運用時間が大きく延びることはありません。前述のデメリットの方が大きいのでＯＮのままにしておくことをお勧めします。

22 ： 送信出力設定
設定値 スイッチ / Lo（初期値 スイッチ）

初期値では、送信出力は右側スイッチ 2 の設定スイッチ 6 番で切り替えることができます。Lo にすると全ての通話モードで送信出力を 1mW に固定することができます。

以上

アルインコ(株)電子事業部